

RSA (JRFU) の目的、育成について



世界へ続く「心の土台」の作り方

私（大塚茂について）

5年生のコーチ
運営部副部長（会計担当）

日本ラグビー協会（JRFU）のB級（普及育成）コーチ資格保有
放課後ラグビー（兵庫県・JRFU共催）2024年メインコーチ

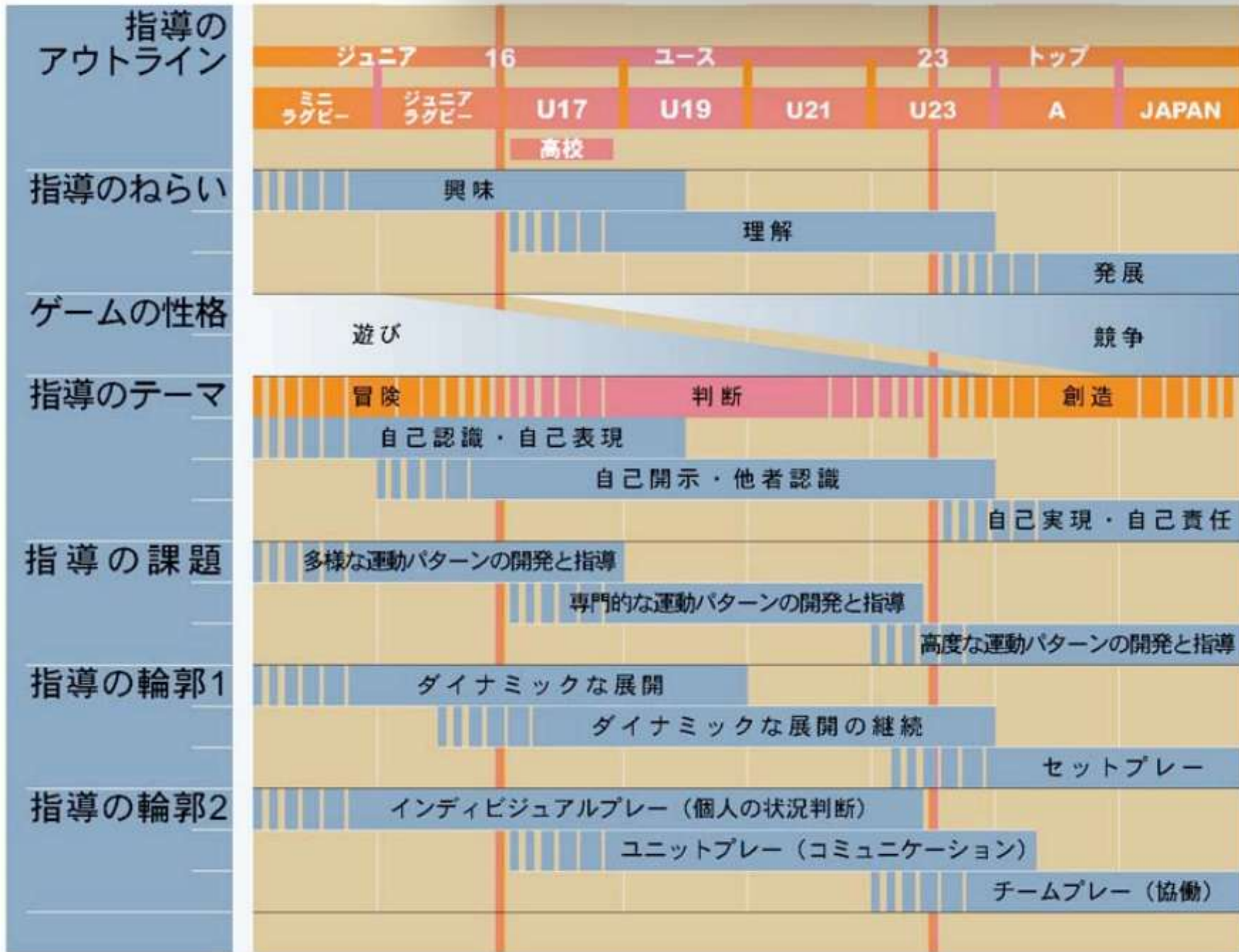
現：芦屋ラグビーソサエティ副理事長
芦屋市スポーツ協会員（事業育成委員）

芦屋ラグビースクールの目的。

ラグビーを通して『**子供達の知力や体力、協調性をもたらす健全な精神を育成する**』こと。

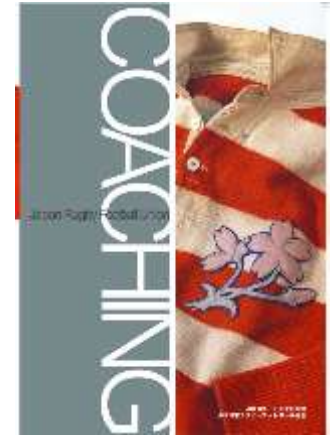
ラグビーの先にある「人生」

「私たちが目指すのは選手作りではありません。ラグビーを通じて、一生を支える知力・体力・協調性を育むことです。」



JRFUコーチング資料

【参考】JRFUコーチングの指針
「指導のアウトライン」



RSAは**ジュニア部門**
を承っています。

育成と強化の違い



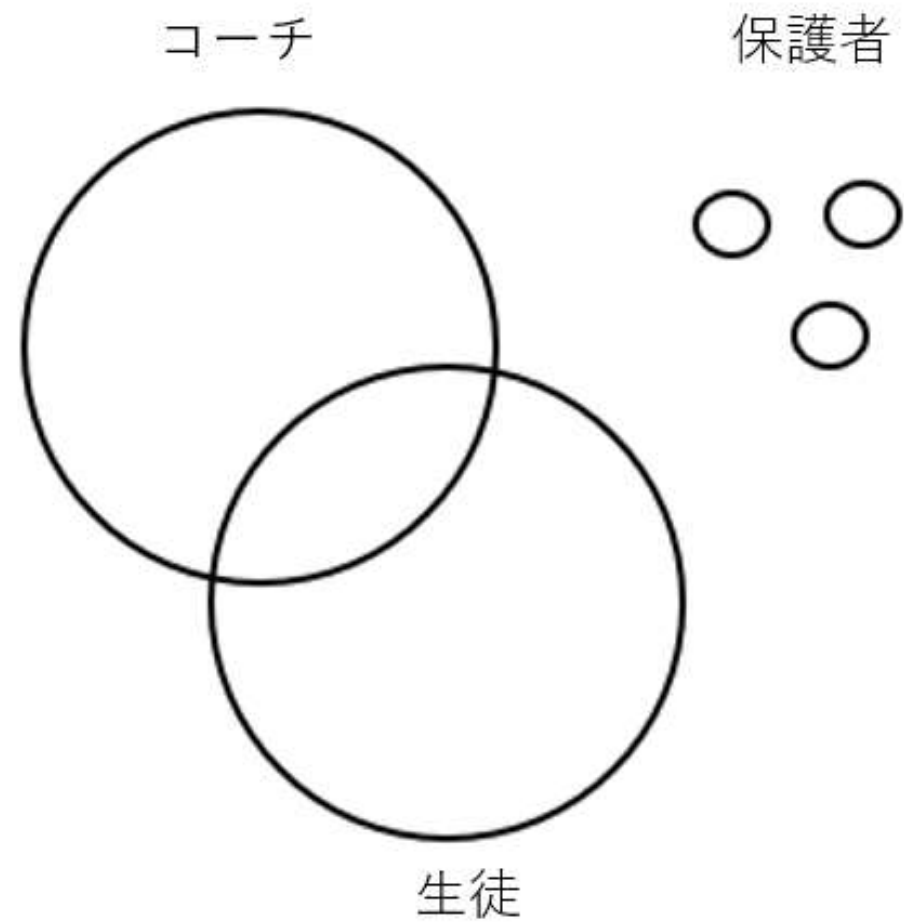
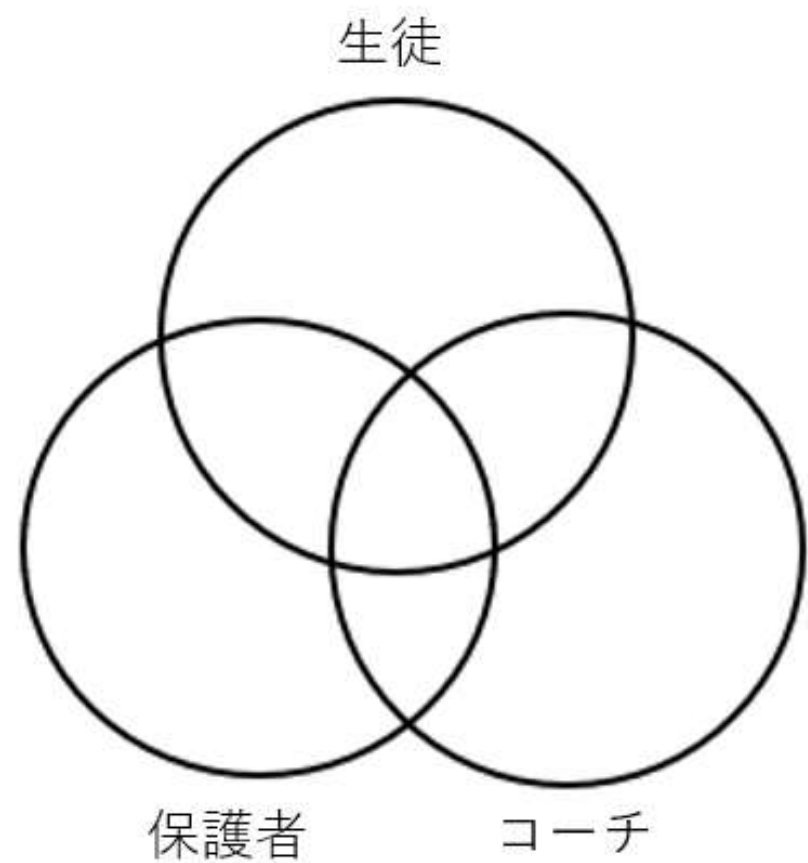
育成・・・土台を膨らませる



強化・・・形を整える

すべてのプレイヤーのすべてのスキルを

組織運営について（ボランティア団体・営利団体比較）



「強化だけ」 vs 「育成＋強化」

- 「リモコン操作される選手」 vs 「自分で選ぶ選手」
- 「指示待ちの兵隊は、世界の大舞台では一歩も動けなくなりません。自分で考え、失敗を恐れず挑む『主体性』こそが、世界へのパスポートです。」

【フライアップでこう言えるように】

子供がラグビーを続けてくれたおかげで、私たちも楽しませてもらいました。次でもラグビーを続けてくれるので、まだまだ楽しませてもらえます。

【まとめ】

育成とは「心の土台を大きくする」こと。それを一番大きくできるのは保護者です。コーチ、上級生、仲間、参考書ではありません。

【そのために】

ラグビー（スクール）に無関心でなく興味を持ちましょう。

成功したらホメる、失敗したら励ます。怒られない、認められる、楽しめる環境。その中でプレーをさせてあげることです。

今は土台を広げる時。そうすれば、将来お子さんは自分の力で勝手に伸びていきます。

10年後、考えてみてください。

- 「今日勝って、明日ラグビーを嫌いになる子」を育てたいですか？
- 「今日負けても、明日『もっとやりたい!』と笑う子」を育てたいですか？
- 保護者が「お子さんの頑張りを認め」、「一緒に楽しんでくださること」。それ自体が、RSAというボランティア組織を動かす一番の動力源（運営）なんです。

(RSAは強いからでなく、親も一緒に楽しめるからオススメなんです)